平成 31 年度第２回高山市男女共同参画推進懇話会（議事録）

日時：令和２年２月２５日（火）午後３時００分～午後４時３０分
場所：高山市保健センター　２階集団指導室
出席者：男女共同参画推進懇話会委員（１０名）
堀内委員、谷口委員、阪下委員、老田委員、金山委員、田中委員、丸谷委員、
大村委員、脇田委員、松下委員
川田部長、水口課長、大上係長、小椋（事務局４名）
欠席者：高井委員、村井委員

１．開　会
２．市民憲章朗唱
３．市民活動部長あいさつ
４．平成 31 年度男女共同参画に関する啓発等の主な取組み（実績）について（資料1）
【事務局説明】資料１により説明
【質疑・意見】
阪下委員）性別欄記載の廃止について詳しく説明を。
事務局）　全国的な流れを受け、市では性的少数者（特にトランスジェンダー）の方への配慮を目的として、印鑑証明や、男女の記載がなくても業務上支障のない申請書類等の性別欄を廃止する手続きを令和元年 11 月より行った。

５．令和２年度男女共同参画に関する啓発等の主な取組みについて（資料2）
【事務局説明】資料２により説明
【質疑・意見】なし

６．第５次高山市男女共同参画基本計画について（資料３）
【事務局説明】資料３により説明]
【質疑・意見】
金山委員）コミュニケーションの改善を求む割合が男性で 55%と高くなっているが、具体的にはどういう事を望んでいるかは調査されているか。
⇒事務局）具体的な回答内容は「話をきいてほしい、会話を増やしたい、ねぎらいの言葉や感謝の言葉をかけてほしい」となっており、これらの合計をコミュニケーションの改善を求む割合としている。

谷口副会長）計画中、第３章　基本目標２　ともに働く (2)「多様な働き方を認め」の表現は主体がわかりづらい。「多様な働き方を推進」などの表現ではどうか。
同様に、基本目標 ともに創る (2)「多様な人たちが協働して」との表現は、多様な人達だけのことのように感じるため、「多様な人たちと協働して」としたほうがよくないか。

堀内会長）男女共同参画という言葉そのものが、多様性を認め合う今の時代に合わないのでは。性的少数者等への配慮も含めて題名ををもっとやさしくできないか。
金山委員）男女と書いて「ひと　と　ひと」というふりがなをいれてはどうか。

⇒事務局）表現については、ふさわしいものにしたい。

７．男女共同参画推進に関する意見交換

丸谷委員）町内会長や役員としては名前があがっていなくとも、実際の活動では家族の中から女性が参画し活躍されている。しかし、職場という視点でみると、男性が育児休業を取得し子育てする例は少ない様子が見受けられる。

大村委員）講演会など様々な取り組みは、どれもとても良い取組みだが、いつも限られた方だけが参加しており、本当に必要な方が参加できていないのではないか。PR する媒体などを工夫して、より多くの方に参加していただきたい。
町内会や地域で女性が活動すると、陰口など言われる風潮があるように思う。それによって女性が役員を引き受けない現状がある。
審議会の女性登用について、ただ人数だけを見るのではなく、審議会での女性の必要性について考えることが大切ではないか。

脇田委員）女性のいない審議会を０にするという目標が建前になっていないかと危惧する。建前になってしまうと、例えば、子どもの不登校の問題に対して、不登校を０にすることを目標にしてしまうと、不登校の子ども本人や家族が否定されてしまうことが起こる。女性が少ない現状の背景などを丁寧に、立場などを超えた話し合いが必要ではないか。
子どもの教育は、道徳の授業以上に、大人の言動の影響が一番大きい。男女平等感も、先生同士の男女平等な言動を子どもたちが見て学んでいる。これは、次世代の若者が地元から離れていく理由にもつながる。大人が「田舎はだめやで、都会にいって頑張らないとだめやぞ」という言動をとっていた時代があったから、地元から離れていくことにつながっているように思う。
⇒事務局）推進状況を図るためには、何らかの指標で推し量る必要があるため女性のいない審議会を０にするという目標を定めている。今後、市民参加条例により、色々な方たちが市の政策に参加できる仕組みを作っていく中で、男女共同参画が進むように取り組む指標の一つとしてとらえていただきたい。

松下委員）計画が「男女共同参画基本計画」とだけあり、中身は人権配慮やワーク・ライフ・バランス、性的少数者への配慮など様々なことが関係する計画であるのに、「男女」と題名があるためにそれが伝わりにくい。「男女共同参画」の本来の内容を、もう少し市民に分かりやすく伝わることが大切。
計画中には性的少数者への理解促進が盛り込んであり、こうして計画に記載されることで、より多くの方に取組みの大切さが伝わり、意識が変わっていくと思う。
⇒事務局）法律の名称より男女と表現されるが、計画では「だれもが」という表現を使用し、いろいろな価値観や思いがある方が、それぞれの意志を実現できる仕組みをつくっていくという視点を大事にしている。

阪下委員）国際間の比較でも、日本は女性の社会的進出が遅れているため、まずは女性の社会的進出について第一に考え、「男女共同参画」という冠をつけて推進することは必要だと考える
　その中で、LGBT に理解を深めるということは、宥恕の精神、お互いを思いやる精神が大切という部分で共通したテーマであるため、取り組みのテーマの視野はだんだん良くなっている。

男女共同参画社会基本法ができて約20年たっているが、アンケートの統計でも成果があまり顕著に出ていかないと感じる。しかし、あまり功を急がず、取り組みを続けていくことが大切だと感じている。

⇒事務局）男女共同参画の推進は、地道に継続して取り組むことこそが一番大事なことだと認識している。10～20年後に大きな社会的な変革に繋がるよう、今後も地道に課題について啓発し、取組みを進めていく。

田中委員）保育園では男性の保育士も徐々に増えてきているが、現状では、男性保育士に対する保護者からの理解がどの程度あるかわからず、偏見にはとても気を使っている。おむつ替えや着替え、身体測定で下着だけになるなど、性的な部分でデリケートな配慮が必要なため、小さい子は男性保育士に担当をさせないなどという園もあるようだ。男性保育士に対する偏見がなくなるようなことが大切と考える。

金山委員）女性が社会に進出して仕事で活動するということは大事なことだが、仕事をしていて、管理職などの指導的な立場になることだけが、本当に女性の活躍なのだろうかと常々疑問に思っている。女性の活躍というのは十人十色であり、家庭の中に入って母親や妻として誇りを感じて生きている方もたくさんいらっしゃる。

計画の中では、職場や地域での女性の活躍という表現が多いが、ここになぜ「家庭」での女性の活躍が入らないのか。計画では、女性活躍は働く女性ということが読み取れるが、そのために何をするかという支援について不十分だと感じる。

⇒事務局）計画を策定する上で、すべて一律ではなく様々な方が、様々な事情があるということを念頭に置き、男女共同参画社会が実現できる環境を整えるということに注力していく。

老田委員）女性相談を受ける中で、DVに関する相談もあり、多くは女性が被害にあっている。経済力があれば自分で行動を起こして次に進める方も多い中、家庭に入っている方は、経済的な自立が難しいため夫に従うしかなくDV被害から抜け出せないケースもある。こうしたことから、まだまだ男性が強く、女性が弱い立場の世の中だと感じている。

また、子育てについての悩みも女性から多くの相談が寄せられる。家庭を築く上で、対等に意見を言い合えるか、家庭の在り方などは家庭によって違うため、一律に支援をするのは難しいと感じている。

谷口副会長）女性の活躍と言われている背景には、根本的に労働者の人材不足が影響している。労働実態調査中、平均勤続年数が徐々に上がっているのは、女性が働き続けたいと望んでいることもあるが、今の経済状況も影響している。

労働実態調査中の表現中、「制度の有無」というのは、就業規則への掲載有無だと思うが、こうした表現からも意識を変えていかないといけないところではないか。

また、介護に対して負担が増加する中、男女共同参画での働きやすい環境整備という視点で、働きながら介護をする家庭に対する支援に重点を置いて進めてほしい。

ワーク・ライフ・バランスの推進として講師派遣などの取り組みをされているが、制度を事業者に活用していただかないと意味がない。ワーク・ライフ・バランスの実現は男女共同参画のすべてに関係する重要なことのため、より積極的に啓発を進めて

いただきたい。
　さらに、セクハラ防止の取り組みをしている事業所の割合がまだまだ低く、大企業では法で義務化されるなど今後取組が推進されるが、高山市では中小企業が多いため、セクハラ防止についての啓発も計画に盛り込んでいただきたい。

⇒事務局）今後、労働担当部署と連携し、一層の啓発をしていく。

金山委員）男女共同参画ということが言われ始めた当初から、20年近く取組みを継続してきたことで、特別な人達だけがやることではないとの認識に代わってきていると思う。しかし、今後施策を進める上で、女性活躍は、子育てをしながら働いて、管理職などになる方だけが活躍しているという捉え方ではなく、多様な生きる道を自分の意志で選択し、それをしっかりまっとうしている方がたくさんいらっしゃるということを踏まえてほしい。高山市は農業従事者や営業の方も多いため、すでに家庭と両立しながら一生懸命暮らし、輝いていらっしゃる方が多い。こうした現状の中で、生きがいを持って働ける場所をどう作っていくか、女性が今置かれているそれぞれの立場で、いったい自分が輝いて働けるというのはどういうことなのか、という女性自身の意識改革が大事だと思う。

松下委員）男女共同参画でいう参画は、社会に参画するということであり、職業につくということではない。子育て中の母親が社会と繋がり、社会に自分がやっていることを発信することも社会に参画することになる。これからの時代は、家にいてパソコンで仕事をしている方や、ブログで発信して本を出版される方など、職場に勤めていなくても活躍されている方がたくさんいらっしゃる。アンケートでは、そうした方がクローズアップされてこないため、アンケートの内容を変えていく必要がある。また、近所の方とコミュニケーションがとれて、子育てのアドバイスができた、というのも、社会参画の一つ。各個人の社会とのつながりがわかるアンケート項目を取り入れられると実態がわかるのではないか。

脇田委員）沖縄県は、全国学力テストで最下位だが、沖縄の教育長が「沖縄は島に残ってくれる子どもたちを育てている。」と話していたことがとても印象に残っている。中学校の体育祭に、大人も皆仕事を休んで、高校生は学校を休んで参加し、まるで地域の運動会のような雰囲気で開催されるという文化が残っているそうだ。それを聞いた時に、後進・担い手を育てていくのは、学力や個性、地域性すべてが同じではだめなのだなと思った経験がある。高山の地域性を考えて、高山の男女共同参画を進めていってほしい。

堀内会長）今、４月より小中学校でコミュニティスクールがスタートするなかで、地域がいかに関わっていくかが注目されている。特に高齢者と子ども達が、それぞれの学んできたことを伝え合うことは、これからは地域の役割でもあるし、その役割を子供達に伝承していくことが大事だと感じた。

⇒事務局）高山市の現状を反映させるという視点で整理していく中で、今回の計画では、基本的視点を見直し、多様な生き方を認めあうという視点とワーク・ライフ・バランスの推進とを分けて整理した。高山の在り方を踏まえた計画にしなければ意味はないという認識のため、本文を書く際には、その部分はしっかり留意させていただく。

堀内会長）今後の懇話会開催の予定は。
⇒事務局）今年度中に計画を策定し、まずは皆さんに送付をもってお知らせし、会議については夏ごろを予定している。

堀内会長）計画策定について、今後のスケジュールと懇話会委員の関わりは。
⇒事務局）今日頂いた意見を踏まえ計画を作成して、内部で決定させていただきたい。
その上で策定後の計画をそれぞれご覧いただき、各事業レベルで推進していくべきことなどをご意見頂きたい。いただいたご意見は、今後の啓発内容や、情報提供に反映させていただきたい。

８．その他
９．閉　会（午後4時30分）